

## 甲信越地区研究会報告

三 浦 淳

標記の研究会が2013年11月16日午後1時30分より、新潟大学新潟駅キャンパス「ときめいと」で行われた。参加者は16名、北は岩手県から南は宮崎県まで広範な地域から来て下さった。

内容は下記のとおりである。

### ■研究発表

- ・新潟大学の英語教育 ―その現状と課題について―  
平野幸彦＋ハドリー浩美（新潟大学）
- ・教育課程特例制度による教科「日本語」の教科書と授業実践 ―日本語教育学との連携の可能性を探るために―  
有田佳代子（敬和学園大学）

### ■シンポジウム

- ・自民党／政府の英語教育政策を問う ―教育再生実行本部／会議の提言を中心に―  
司会・提案者＝森住衛（桜美林大学）、提案者＝上村圭介（国際大学）、拝田清（四天王寺大学）

前半の発表では、まず国際化を謳っている新潟大学の英語教育が、教員の削減などにより危機に瀕している現状が明らかにされ、次に日本語と銘打たれた授業の知られざる様子が紹介された。

後半のシンポでは、英語オンリーではなく多様な外国語教育がなされるべきだという主張も出されたが、日本の現状は明らかにそれとは逆の方向に向かっている。新潟大の英語教育の困難は上に記したとおりだが、いわゆる第二外国語教育はそれ以上に荒廃している実態を三浦が質疑応答の中で明らかにした。

本学会が正式に旗揚げしてから十年余り、現実の言語政策に影響を与える学会を目指していたわけだが、まだまだ前途多難との思いを新たにせざるを得なかった。

（新潟大学）